

-記者発表資料-



国道357号東京湾岸道路（本牧地区）の
開通後の整備効果をお知らせします。

～ふ頭間の移動時間短縮が定着～

平成28年3月27日(日)に開通した東京湾岸道路（本牧地区）（横浜市中区本牧ふ頭～錦町）の開通後の整備効果をお知らせします。

<<ふ頭間の移動時間短縮・開通区間の交通量は堅調に推移>>

- ・開通区間の交通量は約15,000台/日、大型車は約6,800台/日。
- ・並行する周辺の交通量は減少（並行する市道では約3割減少、うち大型車は約4割減少）。
- ・横浜ベイブリッジ（大黒ふ頭方面）の朝の時間帯の交通量は、開通直後から更に増えていますが、移動時間は、約33分から約13分へ約20分短縮。

<<開通区間に並行する市道の環境改善>>

- ・交通量の減少により、並行市道の交通事故件数が約3割減少。

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、神奈川県政記者クラブ、横浜テレビ・ラジオ記者会

お問い合わせ先

国土交通省関東地方整備局 横浜国道事務所

電話 045-311-2981（代表）

副所長 い が ら し か す お
五十嵐 一夫

調査課長 や ま と ゆ う い ち
山本 裕一

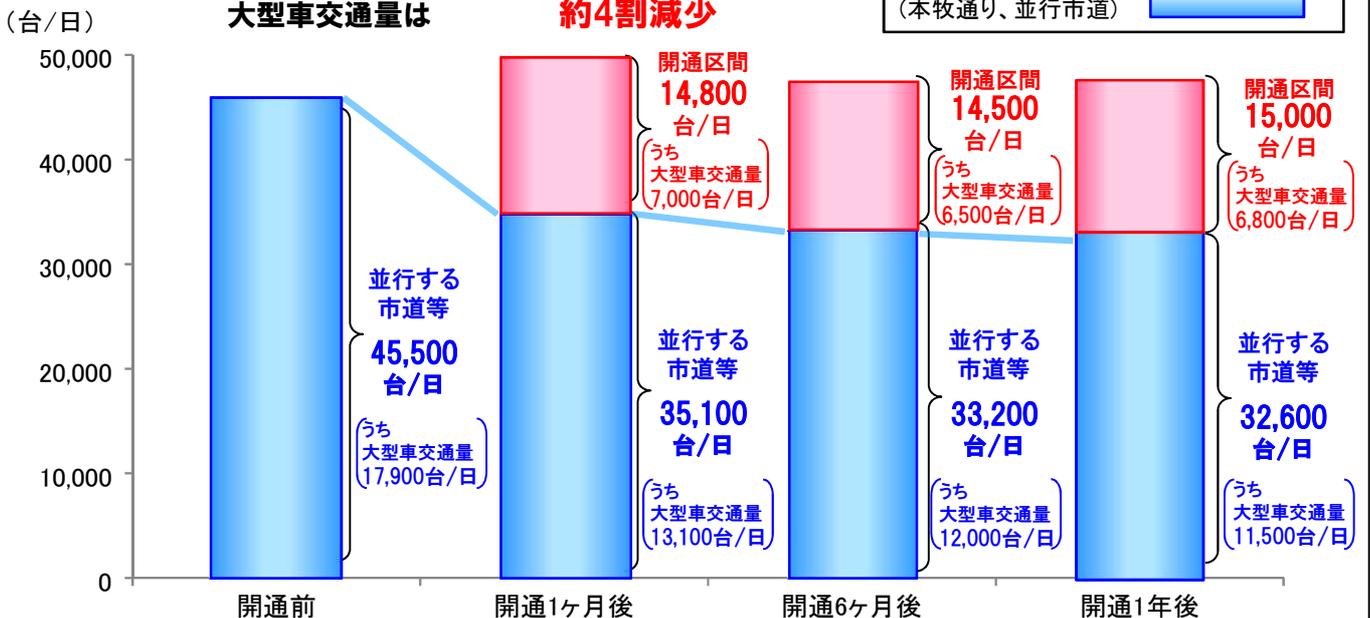
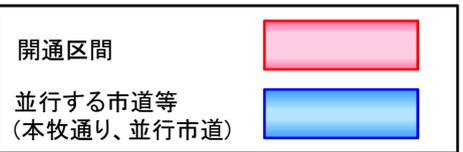
開通1年後の交通状況

- 平行する市道等から国道357号へ交通が転換。
- 開通区間の交通量は約15,000台/日。
- 開通区間に並行する市道等の合計交通量は約32,600台/日であり、開通前の約45,500台/日から約3割減少。
- そのうち大型車交通量は約11,500台/日であり、開通前の約17,900台/日から約4割減少。



○A-A断面における交通量の比較

開通区間の交通量は **15,000台/日**
 並行する市道の交通量は **約3割減少**
 大型車交通量は **約4割減少**



(出典：横浜国道事務所交通量調査より)

【調査日】 開通前：平成28年2月9日(火)
 開通6ヶ月後：平成28年9月27日(火)

開通1ヶ月後：平成28年4月26日(火)
 開通1年後：平成29年2月28日(火)

南本牧ふ頭～大黒ふ頭間の移動時間の短縮

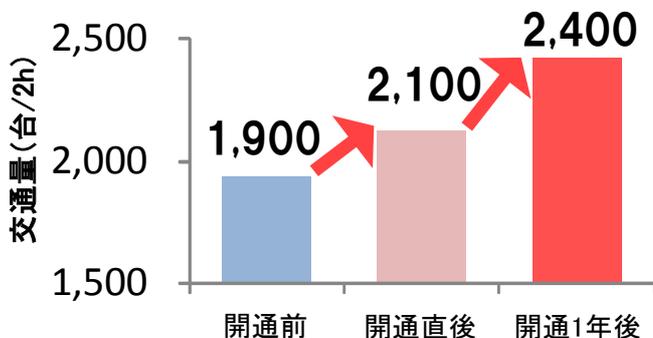
- 横浜ベイブリッジ（大黒ふ頭方面）の朝のピーク時2時間（6・7時台）の交通量は、開通直後から更に増えていますが、移動時間は、約33分から約13分へ約20分短縮。

■走行ルートの変化



■交通量(6-7時台)の増加

(断面：横浜ベイブリッジ(大黒ふ頭方面))

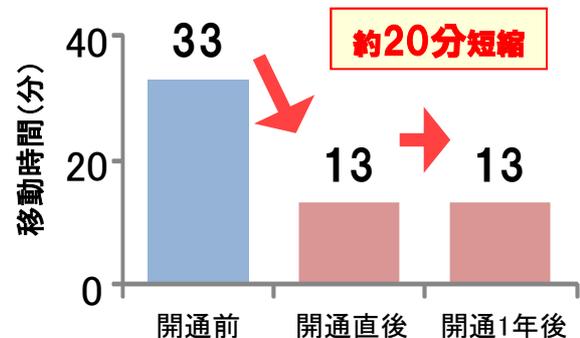


出典：開通前 平成28年2月9日(火)
開通直後 平成28年3月30日(水)
開通1年後 平成29年2月28日(火)

※平成28年12月18日(日)一部改良

■移動時間(7時台)の短縮

(南本牧ふ頭周辺→大黒ふ頭)



出典：開通前 平成27年5月19日7時台上り(実測調査結果)
開通直後 平成28年3月30日7時台上り(実測調査結果)
開通1年後 平成29年1月平日7時台(民間プローブデータ)

■物流事業者の声



大黒ふ頭の物流会社へのバスで通勤している方が楽になったと思う。

私も、バスで通勤しているが、朝、いつベイブリッジに渡れるのかとイライラしたが、今はフラストレーションが減った。

出典：平成29年3月ヒアリング調査(横浜国道事務所調べ)

■物流事業者の声



本牧地区の開通により、南本牧・本牧ふ頭から大黒ふ頭間の移動時間が片道15分、往復30分短縮し、渋滞も無くなったため、移動時間が読めるようになり、効率的な運行が出来るようになった。

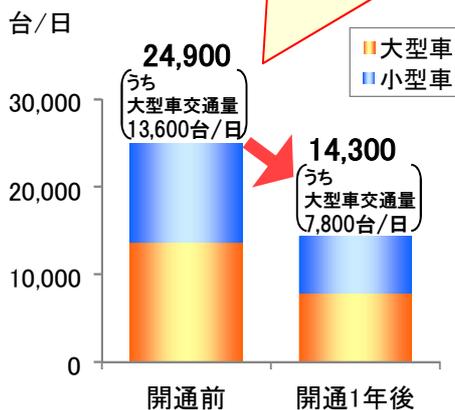
出典：平成29年3月ヒアリング調査(横浜国道事務所調べ)

開通区間に並行する市道の環境改善

- ・並行市道の交通量が開通前の約24,900台/日から14,300台/日と約4割減少。大型車交通量も約4割減少。
- ・交通量の減少等により、並行市道の交通事故件数が約3割減少。

■並行市道の交通量の変化

全車**10,600**台/日 (約4割)減少
大型車**5,800**台/日 (約4割)減少



開通前



平成28年3月平日 15時台撮影

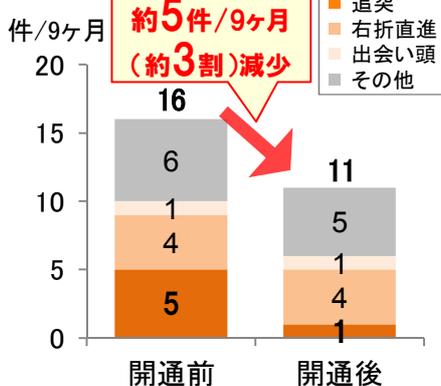
開通後



平成29年3月平日 15時台撮影

出典：横浜国道事務所交通量調査
開通前：平成28年2月9日(火)
開通1年後：平成29年2月28日(水)

■並行市道の事故件数※の変化



約5件/9ヶ月
(約3割)減少

※対象事故類型：人対車両、車両相互
出典：警察署提供資料
開通前：平成27年4月～12月
開通後：平成28年4月～12月



■警察の声



開通前は横浜ベイブリッジの取付道路(市道等)に、出入交通量が集中し、交差点部を中心に交通事故が多発していた。

しかし、開通時に出入口が整備されたことで、出入交通量が分散・整流化され、事故件数は減少した。

出典：平成29年3月ヒアリング調査 (横浜国道事務所調べ)

■住民の声



大型車が開通区間を通るようになり、並行市道では交通量が減少し、並行市道から本牧通りに抜ける生活道路も、車が少なくなってスッキリした。

出典：平成29年3月ヒアリング調査 (横浜国道事務所調べ)